

# 武生高校生の「ニュースの視聴習慣」と「身につけた知識の量」

福井県立武生高等学校

## 要旨

本稿では武生高校生の「ニュースの視聴習慣」と「身につけた知識の量」からニュースの習慣的な視聴は短期的で最低限度の領域の政治知識を身につけるためにはメディアの種類を問わず効果的だということを示す。

## 1. はじめに

テレビニュース、新聞、ネットニュースなどから日々報道される情報を自分の中で多面的に理解し、解釈する情報リテラシーは、成人年齢の引き下げでより一層、私たち高校生に求められる力となった。特に政治については選挙権が与えられるため自分の政治に対する態度を決めていかなければならない。そこで私は武生高校生のニュースを見る習慣とニュースの内容がどれだけ知識として身につけているかを調べることにした。

まずニュースを見る習慣について、単にニュースといっても各メディアで同じニュースの報じ方、報道するニュースは異なる。稲増・池田(2009)ではテレビニュースを争点や政党の主張から政治を伝える「ハードニュース」と政治家の不祥事や失言など中心に扱う「ソフトニュース」の2つに分類し、ハードニュースの視聴は目の前の選挙への関心や全般的な政治への関与との間に正の関連をもっていた。一方で、ソフトニュースの視聴は、政治知識の低い人々においてのみ、選挙への関心と正の関連をもっていることを示した。このことから今回の研究ではハードニュースとソフトニュースの視聴習慣でデータを分類し、考察する。

次に知識量を調査するため、最近の政治の幅広い分野についての出来事に関連し、かつ国民としての必要最低限度の知識量を問う質問を作る。今井亮佑(2008)では必要最低限の政治知識としてアメリカの先行研究(Barder, 1973 ; Neuman, 1986 ; Delli Carpini and Keeter, 1996)で「市民は政治の何について知っているべきか」という観点から具体的に次の側面を知っていることが政治的知識の保有を意味する、と述べられていることを示した。まず、効果的に政治に参加するための「政治の仕組み」に関する知識、次に自発的な政治参加をすると得られると考えられる「政党政治の動向」に関する知識、そして、国民として知っているべき「政治のリーダー」に関する知識。この3つを示した。この中

の「政治の仕組み」に関する知識は武生高校生の中で大きな違いはないと考えられるため除く。「政党政治の動向」に関する最近の具体的な政治の出来事として私達の物流に大きな影響を及ぼす「2024問題」、現在の政党政治の動向を大きく反映する「東京都知事選挙2024」の2つを選びこの2つについての質問を問う。「政治のリーダー」については、国際政治に影響するアメリカ大統領選挙でバイデン氏に代わって立候補をする現アメリカ副大統領カマラ・D・ハリス氏、ニュースでもよく取り上げられる内閣官房長官記者会見を行う現内閣官房長官林芳正氏の2人についての質問を行った。そして、個人の積極性を知るため現在の政治の主な注目点を問う質問を行った。

## 2. 検証方法

2024年8月24日から9月4日にかけて、1学年と2学年に対してそれぞれの学年GoogleClassroomでアンケートを受け付けた。アンケート内容は表1にまとめた。

分析方法はハードニュース、ソフトニュースそれぞれの視聴習慣をハードニュース、ソフトニュースに触れる機会を問う質問で「毎日習慣的に触れている」、「大体毎日触れている」と答えたデータをそのニュースをよく視聴するデータとし、「たまに触れている」、「ほとんど触れない」と答えたデータをそのニュースをあまり視聴しないデータと分類し、ハードニュース、ソフトニュースどちらもよく視聴するモデル、ハードニュースをよく視聴し、ソフトニュースはあまり視聴しないモデル、ハードニュースはあまり視聴せず、ソフトニュースをよく視聴するデータ、ハードニュース、ソフトニュースどちらもあまり視聴しないモデルに分類し、各質問の正答率、を調べる。また、政治の主な注目点を問う質問に関しては、回答率を調べる。

表1 アンケート内容

内容	回答欄
性別を教えてください	○男性○女性○無回答
学年を教えてください	○1年生○2年生○3年生
<p>下のニュースの分類を見て次の問いに教えてください</p> <p>『ニュースの分類』</p> <p>「ハードニュース」</p> <p>○新聞</p> <p>○テレビ(報道ステーション、ニュース9、ニュース23、NHKニュース、クローズアップ現代)</p> <p>など</p> <p>「ソフトニュース」</p> <p>○テレビ(めざましテレビ、ZIP、真相報道バンキシャ!、羽鳥慎一モーニングショー、news every)</p>	
ハードニュースに触れる頻度について	<input type="radio"/> 毎日習慣的に触れている <input type="radio"/> 大体毎日触れている <input type="radio"/> たまに触れている <input type="radio"/> ほとんど触れていない
ソフトニュースに触れる頻度について	<input type="radio"/> 毎日習慣的に触れている <input type="radio"/> 大体毎日触れている <input type="radio"/> たまに触れている <input type="radio"/> ほとんど触れていない
現在の政治の主な注目点をできるだけ多く教えてください (4年前の例 感染症対策) (わからない場合は無回答)	(記述回答)
2024年問題は「ある業種」の労働時間の上限が短縮されたことで、懸念されている社会問題です。「ある業種」を教えてください (わからない場合は無回答)	(記述回答)
都知事選前の小池氏の都政運営の評価について最も低く評価した候補者を選んでください	<input type="radio"/> 小池百合子氏 <input type="radio"/> 石丸伸二氏 <input type="radio"/> 蓮舫氏 <input type="radio"/> わからない
知事として最も取り組みたい分野として「子ども政策・少子化対策」を選んだ候補者を選んでください	<input type="radio"/> 小池百合子氏 <input type="radio"/> 石丸伸二氏 <input type="radio"/> 蓮舫氏 <input type="radio"/> わからない
カマラ・D・ハリス氏の所属と現在の役職を教えてください (わからない場合は無回答)	(記述回答)

林芳正氏の所属と現在の役職を教えてください (わからない場合は無回答)	(記述回答)
--	--------

### 3. 結果

分析の結果を表2にまとめた。

表2 分析結果

アンケート内容	ハードニュースをよく視聴する	ハードニュースをあまり視聴せず、ソフトニュースをよく視聴する	ハードニュース、ソフトニュースどちらもあまり視聴しない	すべてのデータ
現在の政治の主な注目点	0.61	0.79	0.57	0.70
2024年問題の内容理解	0.35	0.42	0.14	0.35
都知事選前の小池氏の都政運営の評価について最も低く評価した候補者	0.43	0.38	0.29	0.39
知事として最も取り組みたい分野として「子ども政策・少子化対策」を選んだ候補者	0.13	0.17	0.14	0.15
カマラ・D・ハリス氏の所属と現在の役職	0.39	0.29	0	0.30
林芳正氏の所属と現在の役職	0.09	0.17	0	0.11
N値	23	24	7	54

### 4. 考察

今回の調査ではハードニュースも多く視聴するモデルとソフトニュースを多く視聴するモデルとの身についた政治知識の量の差は認められなかった。

だが、ハードニュース、ソフトニュースどちらもあまり視聴しないモデルでは、カマラ・D・ハリス氏、林芳正氏の役職と所属を答える「政治のリーダー」についての問題では正解者はおらず、また、2024年問題に関する問題でも正答率が低い。そのことから習慣的なニュースの視聴は幅広い知識を身につけるために有効であると言える。そして、今回の質問の最近の政治の幅広い分野についての出来事をもとにし、かつ国民としての必要最低限度の知識量を問う質問という性質から先行研究と比べて短期的な政治知識に関する結果が得られ

た。この2つのことから高校生にとってはメディアの種類問わず、ニュースの習慣的な視聴は短期的な最低限の領域の知識を身につけることに効果的ということが分かった。

### 5. 結論

高校生にとってニュースの習慣的な視聴は短期的で最低限度の領域の政治知識を身につけるためにはメディアの種類を問わず効果的だということが分かった。

## 6. 今後の展望

今回の研究では自らサンプルを集めたため、サンプルが少なく信憑性が低くなってしまった。

また、東京都知事選挙2024に関する質問で立候補者アンケートを使ったことで、立候補の実際の意思を反映することができたものの、回答形式が候補者を選ぶ形式にしたため、正解の候補者ではない候補者にもある程度当てはまるものもあり、問題設定が曖昧になってしまった。

そして、個人の政治知識が多くなる他の要素の「政治に対する積極度」を反映する従属変数を設定すべきだったこと。これらの課題があった。

## 参考文献

稲増一憲・池田謙一(2009)「多様化するテレビ報道と、有権者の選挙への関心および政治への関与との関連: 選挙報道の内容分析と大規模社会調査の融合を通して」

今井亮佑(2008)「政治的知識の構造」

Barber, James David (1973) *Citizen Politics : An Introduction to Political Behavior*, 2nd ed., Chicago : Political Publishing Company.

しかし、今回の質問の最近の政治の幅広い分野についての出来事をもとにし、かつ国民としての必要最低限度の知識量を問うという性質は、長期的な知識とは違った性質だと考えられるため、短期的な政治知識についてそしてその活用についての研究が行われることを望む。

Neuman, W. Russell (1986) *The Paradox of Mass Politics : Knowledge and Opinion in the Amer. (can Electorate*, Cambridge : Harvard University Press.

Delli Carpini, Michael X., and Scott Keeter (1996) "What Americans Know about Politics and Why It Matters, New Haven : Yale University Press.